

【教員氏名】

串田 久治

【単位数】

4 単位

【演習概要】

今に伝わる多くの歴史書のひとつに、宋の司馬光（しばこう）が著した歴史書『資治通鑑（しちつがん）』がある。これは読んで字のごとく、過去の歴史を来るべき時代の治に資し、人間の鑑（かがみ）とするという歴史観である。ただ、歴史を鑑戒とする考え方は司馬光だけのものではなく、中国では古代から伝統的に受け継がれたものである。今も「史を以て鑑と為し、往を察して来を知る（人間の歴史を鑑とし、過去の過ちを察して未来の行方を知る）」精神は健在である。歴史に教訓が記録されない時、そして歴史に学ぶことができない時、歴史は繰り返される。

以上は拙著『儒教の知恵』の一節です。本講義は中国の歴史書に記録される史料を通して、歴史を記録することの意味を、そして歴史を学ぶことの意味を考えながら今日の日本や世界を考え、二十一世紀の世界を模索するものです。

【学習目標】

本講義は書物から学ぶものではなく、自分の頭で考え、人の意見に耳を傾け、議論し、考えを整理してそれを他者に言葉（文字）で伝える能力を身につける。

【講義計画】

第1回： 本講義の目的はディカスッションをしながら考えることにある。ディカスッションの進展を配慮しながら、また、時事問題を考えながら展開する生きた講義である。したがって、毎回の講義を前もって設定しないのが受講生にとって最も誠実かつ親切である。しかしながら、教務委員会から形式を整えるために30回分を埋めよとの強い要請があったので、講義の進行を妨げないために、また、例年通り受講生にとって真に有意義な講義を提供するために、以下のように記すこととした。なお、詳しい説明はオリエンテーションで行う。

第2回：オリエンテーション（1）

第3回：オリエンテーション（2）

第4回：第一部 歴史を記録することの意味

- 1 History と 史
- 2 直 筆経と緯
- 3 春秋・構?・乗

第二部 歴史と思想

- 1 陰陽五行思想
- 2 十干十二支
- 3 経（たていと）と緯（よこいと）
- 4 天の思想：革命・天道・災異

第三部 歴史を読み解く

- 1 名と実
- 2 婦人の義
- 3 宋襄の仁
- 4 経と権
- 5 過 失
- 6 神格化

のいずれか

第5回：同上

第6回：同上

第7回：同上

第8回：同上

第9回：同上

第10回：同上

第11回：同上

第12回：同上

第13回：同上

第14回：同上

第15回：同上

第16回：同上

第17回：同上

第18回：同上

第19回：同上

第20回：同上

第21回：同上

第22回：同上

第23回：同上

第24回：同上

第25回：同上

第26回：同上

第27回：同上

第28回：同上

第29回：同上

第30回：総括

【成績評価の方法】

本講義は班ごとに活動しますので、欠席・遅刻は認められません（欠席・遅刻は班の活動に支障をきたし、メンバーに多大な迷惑となります）。

レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【テキスト】

串田久治『儒教の知恵－矛盾の中に生きる』中公新書、

【参考文献】

入江 昭著『歴史を学ぶということ』（講談社現代新書）

宮崎市定著『中国に学ぶ』（中公文庫）

市井三郎著『歴史の進歩とは何か』（岩波新書）

串田久治著『王朝滅亡の予言歌－古代中国の童謡』（大修館）

串田久治著『中国古代の「謡」と「予言」』（創文社）

串田久治著『無用の用－中国古典から今を読み解く』（研文出版）

串田久治著『ゆっくり楽に生きる漢詩の知恵』（学研）

串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書）

今村仁司著『近代性の構造』（講談社選書メチエ）

武田泰淳著『司馬遷－史記の世界』（講談社学術文庫）

加地伸行著『史記－司馬遷の世界』（講談社現代新書）

KUSHIDA' S WEB SITE

<http://www1.odn.ne.jp/kushida>

【準備学習の指示】

特に必要はないが、必要な時は指示する。